



施工 レポート

文化財としての壁を残しつつ、利用者と建物を守る左官施工を —重要文化財・旧三笠ホテル建造物保存修理工事— 左官工事：(株)あじま左官工芸

江戸時代に中山道の宿場町として栄え、明治に入り宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーによって避暑地として開拓された軽井沢は「日本の中の西洋」と呼ばれ、多くの外国人や観光客の訪れる夏のリゾート地として発展してきた。そんな異国情緒漂う軽井沢に名クラシックホテルの遺構・旧三笠ホテルがある。1905(明治38)年に竣工し、国の重要文化財にも指定されている建物は、現在、保存修理工事が進められており、内装工事では漆喰壁の塗り替えが行われている。

本稿では、旧三笠ホテル建造物保存修理工事で左官工事を担当する(株)あじま左官工芸の平賀晃司職長(平賀左官)に話を伺い、その漆喰施工についてレポートする。
(編集部)

日本人の手による本格的な洋風木造ホテル

旧三笠ホテルの創業者は、日本郵船や明治製菓などの重役を務めた実業家の山本直良である。軽井沢に25万坪の土地を購入し、別荘地などの開発事業を計画。その中核となったのが純西洋建築の三笠ホテルだった。

設計を手掛けたのは東京駅を設計した辰野金吾の建設事



保存修理工事の概要

工 事 名：重要文化財・旧三笠ホテル建造物保存修理工事
名 称：重要文化財(建築物)旧三笠ホテル
建 築 年：明治38年(1905年)
所 在 地：長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1339-342
事業期間：令和元年6月3日～令和6年度末予定
工事期間：令和2年1月10日～令和6年度末予定
事 業 者：軽井沢町
設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会
施 工 者：清水建設株式会社